

§ 2-1. 教養力育成科目 / Liberal Arts

1 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

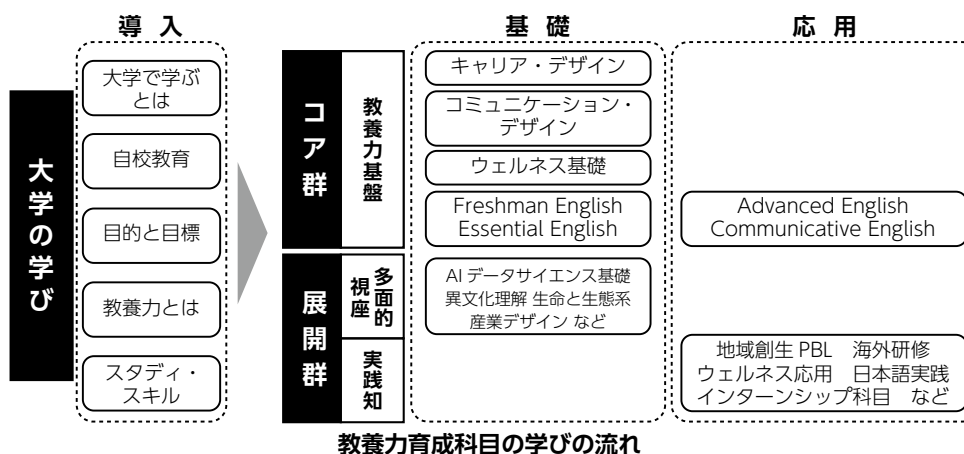
■科目群（学修領域）

- ①コア群（教養力基盤）
- ②展開群（多面的視座、実践知）
- ③教職科目

■カリキュラム編成の基本方針

教養力育成科目は、コア群（必修科目）と展開群で構成される。コア群は、全ての学生がどの学部学科に所属しようとも本学を卒業する時までに身に付けておくべき知識・能力の修得の中核を担う必修科目から成る。コア群では、他者と関わりながら各々の将来・人生をデザインする力と、グローバル社会のあらゆる場面で多様な人とコミュニケーションをとるために、生きる術となる言語力を養成する機会を与える。また、コア群での学びを通して、主体的に取り組むための根幹として必要な「自己決定力」と「自己調整力」の醸成を図る機会を持つ。その一環としてコア群では、自分事として大学で学ぶ意識の向上につながる学生アセスメントの機会を提供する。

展開群では「多面的視座」と「実践知」の獲得を基柱とする。異学科異学年との混成クラスの中で、専門分野を異にする学生間での協働を通して多様な価値観に触れ、文理問わず必要とされるデータサイエンスや様々な学問分野の知識を得ることで多面的に思考できる視座を養う。また、トライアル・アンド・エラーによる学びによって実践知の獲得を図る。さらに、大学生に求められるスタディ・スキルの修得にも継続的に取り組む。



■年次別科目の配当方針

教養力育成科目は、教養力の基盤形成を図るコア群と多面的視座および実践知の獲得を図る展開群を1・2年次に配当する。1年次は「自ら選び、学ぶ」という自律的姿勢に繋がるマインドチェンジを図るため、「導入」として1年次の授業開始前におけるオリエンテーション等での学び、その後、必修（または選択必修）の「キャリア・デザイン」「コミュニケーション・デザイン」「ウェルネス基礎」「Freshman English A, B または Advanced English A, B」を配当する。2年次配当科目や「応用」の科目には、先に履修を推奨する「基礎」の科目や要件があり、その流れを持つことで学びの深化が可能となる。

各科目の配当年次以降は、どの年次でも受講可能であるため、自らの専門分野や興味、学修ペースに合わせて自律的に計画を立てて履修し、自分に合った教養力育成のための学びを作り上げることができる。

■学修成果の評価の在り方

各授業科目の学習内容、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバスにより学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を行う。また、大学 DP のうち学力3要素にあたる「主体性・協働性・多様性理解」に関する態度育成を到達目標とする科目の一部については、アクティブ・ラーニングを取り入れ、グループ活動等では学修到達度の尺度に基づいた評価（ルーブリック評価）を行う。